

1) 移動阻害

本調査において確認された陸上動物のうち、ヤシガニ及びオカヤドカリ類は、幼生放出のために降海し、陸と海を往来することから、施設の存在により移動経路の分断が生じるおそれがあるものと考えられる。このため、確認地点から海浜部への移動経路について、小型コウモリ類の移動を考慮して創出する緑地の利用の可能性も踏まえて、位置、構造等について検討を行った。

表-6.9.2(11)、図-6.9.2(37)に示すとおり、オオナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリについては海浜部のみで確認しており、事業実施区域内や、それより陸側では確認していない。オカヤドカリは海浜部に加えてカタフタ山、ゴルフ場などの内陸部でも確認しているが、数が多かったのはゴルフ場内の事業実施区域内であった。ムラサキオカヤドカリは主に海浜部で確認しているが、ゴルフ場内においても少数を確認した。ヤシガニは海浜部に加えてタキ山東やゴルフ場などの内陸部でも確認した。ナキオカヤドカリは海浜部に加えてゴルフ場、小河川周辺でも確認した。

内陸部でも確認されたオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニについては繁殖期の海浜部への移動の際に影響が生じる可能性もあるが、直立した擁壁などの構造物が海浜部に設置されることはなく、海浜部のモクマオウ植林及び海浜植生は現状のまま残され、海岸線近くまで張り出した植生が保たれることから、海浜部へ降りていくことは可能であると考えられる。

内陸部に生息する個体は、空港の存在が移動経路を阻害することになるが、現状の分布は、事業実施区域の北側に多く、これらの個体は現状においては空港北側の樹林地や小河川を移動経路として利用していると考えられる。空港北側には小型コウモリ類の移動を考慮した緑地が創出されることからヤシガニ、オカヤドカリ類の分布と移動能力からみてこれらの緑地は十分に移動経路として利用可能であると判断できる。また、空港西側及び北側に創出する緑地は、ヤシガニやオカヤドカリ類が移動経路として利用できるよう、緑化を自然の状態で行い構造物等の障害物を配置しないよう配慮する。

なお、緑地の創出にあたっては、ヤシガニやオカヤドカリ類の餌となる果実等のつく樹木も植栽することとし、樹種の選定については専門家の指導・助言を得て決定する。

以上のことから、移動阻害のおそれはほとんどないものと考えられる。

なお、空港北側の小河川はボックスカルバートで空港地下を通すことが計画されており、ヤシガニやオカヤドカリ類が移動経路として利用することが期待できる。このためボックスカルバート内部の構造は段差をなくし、平常時に水が流れる水路部を設置し、ボックスカルバートの出入り口は根固めを行い段差を生じないようにするなどの配慮を行う。

表-6.9.2(11) 移動阻害のおそれがある種

種	確認状況
オオナキオカヤドカリ コムラサキオカヤドカリ	海浜部、轟川河口などで確認。 内陸では確認なし。
オカヤドカリ ヤシガニ	海浜部に加えてカタフタ山、タキ山東、ゴルフ場などの内陸部でも確認。
ムラサキオカヤドカリ ナキオカヤドカリ	海浜部に加えてゴルフ場、小河川周辺でも確認。